

タモロコ（コイ科）

学名： *Gnathopogon elongatus elongatus*

別名： モロコ

大きさ： 全長 10 cm

特徴： 体側に 1 本の黒色縦帯をもち、尾びれの基底には 1 個の黒点様の模様をもつ。口の開口方向は水平ないしやや下向き。うろこは比較的粗い。大きさや体型などが類似するモツゴとは、口ひげの有無（タモロコには 1 対の口ひげがある）、口の開く向き（モツゴは上向き）などで区別は容易。

産卵期は 4～7 月で、水草などに卵を産み付ける。

国内の分布： 関東以西の本州，四国の愛媛県と高知県が自然分布域と考えられている。東北地方や九州にも現在は分布しているが、それは移殖によるもの。

県内の分布： 霞ヶ浦水系や利根川水系，那珂川水系，久慈川水系，県北地域の各河川など，県内各地の湖沼や河川に分布。ただし，圃場整備などにもなう生息場の改変が行われた場所では，生息数が少なくなる傾向にあるようである。

県内の生態： 霞ヶ浦では湖岸付近，湖周辺の水路に分布している。

備考： 霞ヶ浦周辺では，佃煮に加工されるなど産業的な利用がされている。

主な文献：

霞ヶ浦情報センター研究委員会編（1994）霞ヶ浦の魚たち．霞ヶ浦情報センター，阿見町．167 pp.